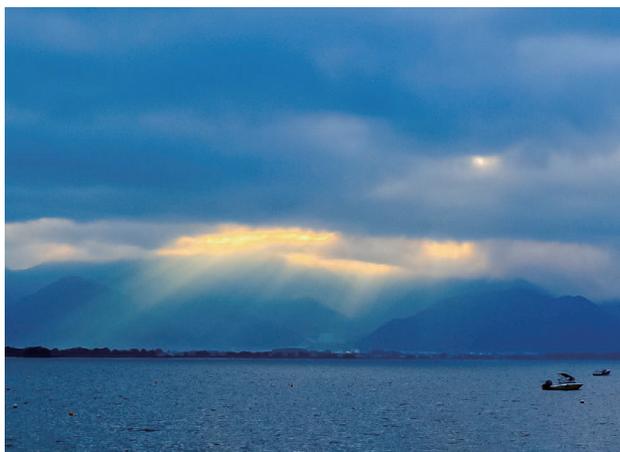


永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2022年 11月

「神のみかたちを回復する」「地上における天国（Ⅱ）」「教会と残りの民（Ⅲ）」
「長芋ふわふわ焼き」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「地上における天国(Ⅱ)」

4

聖書の教え

朝のマナ

神のみかたちを回復する

7

Restoring the Image of God

現代の真理

「教会と残りの民(Ⅲ)」

38

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「長芋ふわふわ焼き」

42

レシピ

お話コーナー

「動物があらわれる(2)」

44

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

発行日 2022年10月2日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

一生の仕事

どんなことにも、成功するには一定の目標がなければならない。人生に真の成功を取めたいと思えば、努力に値するだけの目標をしっかり念頭におかなければならない。今日の青少年たちの前には、このような目標が置かれている。現代の世界に福音を伝えるという天来の目的こそは、どんな人間の心にも訴える最も高貴な目的である。キリストが心にお触れになったひとりびとりの前には、このような努力の分野が開かれている。…

多くの人たちがもっと広い働きに召されるであろう。全世界は福音のために開かれつつある。…

福音宣伝の働きがはかどったり妨げられたりするときに、われわれはその結果を自分自身や世人とむすびつけて考えるが、これを神とむすびつけて考える人は非常に少ない。罪のために創造主が受けられた苦しみを思う人は非常に少ない。全天はキリストと苦しみを共にしたが、しかしその苦悩はキリストが人性をとって現われたときに始まったのでもなければ終わったのでもない。十字架は、罪が初めてあらわれたときから神の心に生じた苦痛を、われわれの鈍い感覚に示すものである。人が正しいことから離れるたびに、残酷な行ないをするたびに、人性が神の理想に到達できないたびに、神は悲しまれるのである。…

この世界は広いラザロの家（注・貧しい病人の収容所）のようなもので、…その現実の姿をみつめるとき、重荷はあまりに大きいであろう。しかし神はそのすべてを感じておられるのである。神は、罪とその結果を減ぼすために、最愛のひとり子をあたえ、み子との協力によってこの悲惨な光景を終わらせる能力をわれわれにお与えになっている。

「この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。」…それはわれわれがみなキリストと共に働く者となって「よろこびのおとずれ」を同胞に伝えなくてはならないことを意味している。偉い人にも、凡庸な人にも、学問のある者にも無知な者にも、老人にも青年にも、すべての人にこの命令は与えられているのである。…

われわれは人生に対する神のご計画にもっと注意深く従わなければならない。最も手近な働きに最善をつくすこと、われわれの道を神に任せること、神の摂理の指示を見守ること、—こうしたことが職業の選択にあたって、安全な手引きを保証する原則である。（教育 310-312, 316）

第30課 地上における天国(Ⅱ)

救われた者の住まい

その聖徒たちは、その都市に住むだけでなく、田舎に家をかまえます。地球全体が、彼らのものとなります。なぜなら、「国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる…」からです(ダニエル 7:27)。

エデンにおいて、アダムは園の手入れをするように命じられました。贖われた人々も同様です。この点については、主は、預言者イザヤを通じて次のように言われました。

「彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。彼らが建てる所に、ほかの人は住まず、彼らが植えるものは、ほかの人が食べない。わが民の命は、木の命のようになり、わが選んだ者は、その手のわざをながく楽しむからである。彼らの勤労はむだでなく、その生むところの子らは災にかからない。彼らは主に祝福された者のすえであって、その子らも彼らと共にいるからである」(イザヤ 65:21-23)。

地上の平安

救われた人々は、自分の建てた家を永遠に楽しむことができます。侵略軍が、侵略して略奪するために進軍してくるようなことはありません、盗人が押し入り、盗むこともありません。アダムのために呪われた地は、再び力をもって実を産出します。凍える霜や夏の暑さが地の果物を損なうことはありません。気候は、完璧なものとなります。破壊的な昆虫が穀物を襲うことはありません。なぜなら、それらの害虫はみな抹殺されたからです。疫病が発生することはなく、嵐が地上を一掃することもなく、また洪水が穀物を流してしまうこともありません。なぜなら、罪の結果として弱められていた自然の力は、再び本来の力を獲得するようになり、また万事は今日のように人間に逆らってではなく、人間の利益のために働くようになるからです。

わたしたちが今日、目にしてのと同じ種類の動物たちが新地でも見られるでしょう。しかし、何一つ飢えた残酷なものはありません。

「おおかみは小羊と共にやどり、ひょうは子やぎと共に伏し、子牛、若じし、肥えたる家畜は共にいて、小さいわらべに導かれ、雌牛と熊とは食物を共にし、牛の子と熊の子と共に伏し、ししは牛のようにわらを食い、乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである」(イザヤ 11:6-9)。

このパラダイスの様々な鳥は、自分たちの創造主のために賛美の甘美な歌をうたうでしょう。豊かな新緑が丘や谷を覆い、壮大な木々が、堂々とした枝をそよ風になびかせるでしょう。全地が栄光と美しさの場所となるのです。

天国には病院はありません。なぜなら、その地の住人は決して、「わたしは病気だ」(イザヤ 33:24)ということがないからです。そこには墓や葬列はありません。すべての人が身体的に完全になり、永遠の若さという生命力を享受します。

「人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである」。すると、御座にいますかたが言われた、『見よ、わたしはすべてのものを新たにする』。また言われた、『書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである』。(黙示録 21:4, 5)。

しかし、いったいだれがこの地の栄光を本当に描けるでしょうか？だれが永遠の命の価値をはかることができるでしょうか。わたしたちのもっとも好ましい夢の中でさえ、それをとらえることはできないのです。

「目がまだ見えず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(コリント第一 2:9)。

ご自分の子に対する神の愛は、最高の人間の思いが到達できる以上に高いのです。そしてこの愛は、将来の生活において神がご自分の子らの上に豊かに与えようと待っておられる報いのうちに表されるようになります。

二つのエデンにおいて異なる点

墮落前のパラダイスと、罪の根絶後に回復されたパラダイスの違いは何でしょうか。それは、キリストの十字架です。罪を犯した人間を、失われた家に連れ戻すためには、神の御子の命が必要でした。キリストは、神とパラダイスへ戻す「道」

でられます。このお方を通してのみ、人は自分の失った「生命の木にあずかる特権」を再び得て、それを食べて永遠に生きることができるのです。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです」（ヨハネ 17:3）。

あなたは今日、神のもとへ行きますか？このお方は、あなたをご自分の心と家へ迎えようと待っておられます。このお方は、あなたから汚れた罪の衣を取り去り、ご自分の義という白い衣であなたを覆いたいと切望しておられます。このお方はご自分の血によってあなたを洗い、あなたの命を雪のように白くしてくれます。今でさえ、このお方の御声はあなたを呼び、次のように仰せになっています。「わが子よ、あなたの心をわたしに捧げなさい」。このお方が苦しみ、血を流し、カルバリーで死なれたのは、あなたのためなのです。

あなたのために、このお方は今でさえ、栄光の冠と神の都に家を用意しておられます。このお方が嘆願しておられるのを聞いてごらんください。「なぜ、あなたは死ぬのか」。このお方が声をかけておられるのは、あなたなのです。あなたは、このお方に「いいえ」と答えて、このお方の偉大な愛に対して頑なに心を閉ざすのでしょうか。あなたは、「このお方をわがものとするのは恥ずかしい」と言うのでしょうか。ああ、そんなことがあり得るでしょうか！わたしたちはいかに神の比類なき愛を軽視することができるでしょうか！いかにこのお方の偉大な救いをなおざりにできるでしょうか！各自、このお方を完全に受け入れ、勝利者となるように奮闘しましょう。

「勝利を得る者には、神のパラダイスにあるいのちの木の實を食べることをゆるそう』（黙示録 2:7）。

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



11月

自己が空にされた謙遜な器

11月1日

わたしたちのための祈り

「地の果なるもろもろの人よ、わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ。」(イザヤ 45:22)

天におられます父なる神様、わたしたちの唯一の避けどころ、唯一の助け主、わたしたちをわたしたち自身の罪から救うことのできる唯一のお方であるお父様のところへ、わたしたちは今夕来ました。……お父様だけが心の鉄の帯を砕くことがおできになります。目の見えない者に何が罪であるかを識別させてください。どの魂も天の家族の中に移される準備ができる前に、この世で持たなければならない品性の実現しなければならないことを悟るよう印象づけることのおおできになる方です。ああ、お父様、お父様、民を襲う盲目、恐ろしい盲目、彼らはお父様がどのような品性を受け入れることができ、どのような品性を拒まざるを得ないかを識別しないのです。主よ、心と思いに働きかけてくださいますようお願いいたします。ああ、罪の恐ろしい罪深さをすべての者に印象づけ、お父様が罪をどのように思っておられるかをすべての者に印象づけてください。

ああ、お父様、お父様、あなたは世を非常に愛してくださって、そのひとり子を恥ずかしい死に至らせてくださいましたが、それはこのお方を通して世が永遠の命を持つことができるためでした。人類家族に、この地上で正しいことをすることにおいて自分たちを教育する特権を与えてくださいましたが、それは上なる罪のない家族と一つになり、お父様の王国で永遠に住む準備ができるためです。わたしたちは、過ぎ去りつつある機会と特権を見、心がますますかたくなになっており、ますます感覚が鈍くなっているのを見ます。ああ、むち打たれ、神の家族と一つになるために生きるどの魂のためにもそれを可能にするために十字架の苦悩を苦しまれたイエス・キリストのために、わたしたちは祈ります。—ああわたしたちは祈ります。わたしの救い主、この心のかたくなさを壊してくださいますようお祈りします。魂をとかし、屈服させてくださいますようお祈りします。(説教と講和1巻 378,379)

おごりを避ける

「主を恐れるとは悪を憎むことである。わたしは高ぶりと、おごりと、悪しき道と、偽りの言葉とを憎む。」(箴言 8:13)

神は今の時代に大いなる光と知識をご自分の民に与えておられる。このお方はご自分の僕がへりくだってご自分により頼む限り、彼らに力と知恵をお与えになる。彼らは変わらぬ方針のもとに、キリストの宗教を他の人々に推奨することができる。しかし自己尊重、おごり、厳しさをほしいままにするために自分の立場を利用する人々は、神のみ働きに疑いを投げかけ、自分たちの悪意のある疑惑や不信仰に懐疑的な言い訳をする。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1880年10月7日)

人の性質の中には一方の極端から完全にもう一方の極端に走る傾向がある。多くの者が狂信者である。彼らは宗教にとって誤りである火のような熱心さで燃えるが、その性質は弟子の身分の真のテストである。彼らにはキリストの柔和があるであろうか。このお方のへりくだりとかがわしい慈悲心があるであろうか。魂の宮は自尊心、おごり、利己心、あら捜しが空にされているであろうか。もしそうでないなら彼らは自分がどのような精神の態度であるのかわかっていない。真のキリスト教は神の栄光のために多くの実を結ぶことで成り立っていることに気づいていない。(教会への証 5巻 305,306)

もしあなたが自分自身についてあまりにも高い見解を持つなら、あなたは自分の働きが実際よりもっと重要であると考えることであろう。そして、おごりの瀬戸際にある個人の独立を訴えることであろう。もしあなたがもう一方の極端に行き、自分自身についてあまりにも低い見解を持つなら、劣等感を持ち、劣っているという印象を残して、善ために働かせることができたはずの感化力を非常に制限することになる。あなたはどちらの極端も避けなければならない。感情があなたを支配してはならない。状況があなたを左右してはならない。あなたは自分自身に正しい評価をし、両極端からの保護策を立証するものとなることができる。あなたは虚しい自信なしに威厳をもつことができ、自己尊重や個人的な独立を犠牲にすることなくへりくだって、相手に譲ることができる。そして、あなたの人生は、生涯のより低い歩みにおいても高い歩みにおいても他の人々に大きな感化力を及ぼすことができる。(同上 3巻 506)

11月3日

怠惰の悪

「見よ、あなたの妹ソドムの罪はこれである。すなわち彼女とその娘たちは高ぶり、食物に飽き、安泰に暮らしていたが、彼らは、乏しい者と貧しい者を助けなかった。」
(エゼキエル 16:49)

もしあなたの子供たちが労することに慣れていないなら、彼らはまもなく疲れてしまう。脇腹が痛い、肩に痛みが、手足がつかれたと文句を言い、あなたは同情してその働きを自分で行うという危険がある。……不活動状態は子供たちの脇腹の痛み、肩の痛みの最も大きな原因である。……

青年のほとんどが真の健全な精神と良識を示さない。彼らは心に特別な目的を持たないで、蝶のような生活を送る。この種の世俗的な者がともに集うと、あなたの耳に入るものは皆衣服または何か軽薄なことについての思慮のないわずかな意見であり、それから自分たちが非常に利口であると考え、彼ら自身の意見を聞いて笑う。これが年配の人々の面前で行われ、これらの人々は自分たちの年齢への尊敬の欠如に悲しい思いをする以外にない。これらの青年は控えめと行儀のよさという感覚が全く失われているように思われる。それにもかかわらず彼らが教えられてきた方法は、それが立派な礼儀作法の極みであると彼らが考えるように導くのである。

この精神は伝染病のようであり、神の民は自分の子供たちのための交際仲間を選び、これらのむなしい俗物との交際を避けるよう教えるべきである。母親は娘たちを台所に連れてゆき、忍耐強く教育しなさい。彼女たちの性質はそのような労働にもっと適したものとなり、その筋肉は健康な状態と力を得、その瞑想はその日の終わりにはもっと健康的でもっと高められたものになる。……子供たちが働こうが働くまいが大したことはない、彼らにほめかしてはならない。彼らの助けが必要であり、彼らの時間は価値があつて、あなたは彼らの働きに頼っていると教えなさい。……

多くの罪が怠惰の結果である。活動的な手と思いは敵がほめかすどの誘惑にも注意を払う時間はないが、怠惰な手と脳はサタンが支配する準備ができていいる。思いは適切なことに占められていないと適切でない事柄にこだわる。両親は怠惰は罪であることを子供たちに教えなければならない。(教会への証1巻394,395)

他の人々に語る際の知恵を得る

「高ぶりはただ争いを生じる、勧告をきく者は知恵がある。」(箴言 13:10)

神の愛が魂を満たさなければならない。さもないと義の実は現れない。虚栄や自尊心、権力や利益にふけるのは安全ではない。あなたに力があるからと言って、いらだち、非難し、つぶやき、また、このような方法であなたが虐待している人々があなたを止められないゆえにそうするのは、利己心の最悪の面である。家族の輪の中で、教会の中での不一致の原因は利己心である。クリスチャンでない心は、何も存在しない他の人のうちに大きな悪を見極めることができると考え、小さな事柄が大きく拡大されて見えるようになるまで考え続ける。ある者には非常に大きく思えるこれらのささいな事柄を解決する働きを、神はご自分に従う者自身が行うようにと残しておかれる。だれも教会内で、それによって多くの者が汚される苦い根となるまで、不幸な不一致を残さないようにしましょう。キリストが心のうちにおられるとき、神と人への愛によって心は非常に和らげられ抑制されるので、いらだち、あら捜し、争いはそこに存在しない。心のうちにあるキリストの宗教は、それを持っている者に主導権を求めているそれらの激情への完全な勝利を得させる。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらの〔必要な〕ものは、すべて添えて与えられるであろう」と仰せになった(マタイ 6:33)。この約束は決してなくなる。わたしたちは神の好意が与えられる条件に従うまではこのお方の好意を楽しむことはできない。そうすることによって、世が決して与えることも取り去ることもできない平安、満足、知恵がわたしたちに訪れる。教会としてあなたがたが神の祝福を豊かに受けたいのであれば、個人的にあらゆる考え、計画、働きにこのお方を初めとし、終わりとし、最高としなければならない。神への従順はクリスチャンの最初の義務である。へりくだった思いと感謝する心は、わたしたちをささいな試練や現実の困難を越えて高める。わたしたちが主人であるお方の奉仕において熱心さ、活発さ、用心を減じるほど、思いは自己に集中し、モグラ塚を困難の山に拡大する。無礼がもくろまれていない時でさえ自分は傷つけられているとわたしたちは感じるようになる。(教会への証 4巻 610, 611)

11月5日

代わりに愛を選ぶ

「ひそかにその隣人をそしる者をわたしは滅ぼします。高ぶる目と高慢な心の人を耐え忍ぶことはできません。」(詩編 101:5)

イエスのご臨在を退かせるありふれた、安っぽい、地上の事柄を思いに夢中にさせないようにしよう。教会の命はキリストから伝わっており、わたしたちが命を与える力と調和して働き、自己を視野から外し、最も聖なる信仰でお互いを強めるとき、わたしたちは教会を助ける。

神は、わたしたちの見解と厳密に合わないがために、わたしたちが受け入れられない器をお選びになるかもしれない。彼らは、まさに完全なものとして示された分野で働かない。そして、彼らを神に任せ、聖霊が彼らと共に働いて下さるところをおくと、自分たちが今までになされたことのない働きをしているのを見るからといって、多くの人々は困難を提示し始め、道をふさぎ、嘆かわしい感情をいだき始める。そのとき品性の批判やちよつとしたつぶやきをかき集めること、あら捜しと中傷、ささいな事件とできごとを重大な罪に拡大することが始まる。これはわたしたちが弱くなるまで教会内で続けられ、物事のこの狭い秩序が変わらない限り、わたしたちは常に弱いままである。神の御子という尊い賜物のゆえにあなたがたが神への感謝と謝意と讚美で満たされ、羨み、嫉妬、競争心を捨て去り、真の愛と一致が存在することができるように、主があなた方すべてに何をなすべきかを示して下さることを祈る。

キリストはご自分と御父が一つであられるようにご自分の弟子たちも一つとなるようにと祈られた。この一つは何によって成り立つのであろうか。この一つは、一人びとりが同じ性質、同じ気性を持ち、本当に同じ方向で考えるからといって存在するのではない。すべての者に同じ程度の知性があるのではなく、同じ経験があるのででもない。教会内にはさまざまな賜物といろいろな経験がある。現世の事柄には取扱いの方法に非常に多様性があるが、働きの方法における、賜物の実践におけるこれらの違いが意見の相違、不調和、あつれきを造りだしてはならない。(原稿リリース 11 巻 265, 266)

へりくだる者には知恵がある

「高ぶりが来れば、恥もまた来る。へりくだる者には知恵がある。」(箴言 11:2)

わたしたちは、人々の思いが何か新しいことを絶えず求めている時代に生きている。この願望は、正しく導かれ適切な制限内に保たれているなら推奨できる。神は創造の御業の中で思想を刺激し徹底的な研究を激励するのに十分なものをわたしたちに与えておられる。このお方はわたしたちが鋭敏でなく、好奇心が少なく、知性的でないことをお望みにならない。しかしわたしたちは、自分たちの向上心すべてにおいて、研究すべてにおいておごりは偉大なことではなくうぬぼれは知識ではないことを覚えていなければならない。人間の自尊心は力強さではなく弱さの証拠である。それは知恵ではなく愚かさを表す。過度に理性を高めるのは、それを下げることになる。人間を聖なるものと張り合う立場に置くのは軽蔑に値する。人はどのようにして神の義にかなうことができるというのであろうか。これは人類に関する最も大きな質問である。人間の議論の筋道は答えを見つけることができるのであろうか。否、啓示だけがこのもっとも重要な問題を解き、人の人生の道に光を注ぐことができる。それであれば、光の大いなる唯一の源、義の太陽からそれて、人間の知恵という弱々しい不確かな光に従うとはなんと愚かなことであらうか! (ビュー・アノド・ハラルド 1886年1月19日)

もし若者が自然界で神の輝かしいみわざを研究し、そのみ言葉のうちに表されているようにこのお方の至上権と権威を研究したいなら、彼らは活気づけられ高められた能力をもってそのようななどの訓練からでも達するであろう。活動力はおごりと同質になることなく受け入れられるであろう。神の力の驚異を熟視することによって、思いはすべての教えの中で最も困難であるが最も有益であること、人間の知恵は無限のお方とつながっていない限り、キリストの恵みによって聖化されていないかぎり愚かなものであることを学ぶ。

ご自身が神であって、造り主と被造物、無限のお方と有限な者をつなぐ事業における神のいとし子の働きは、生涯にわたってわたしたちの思想を十分に専念させる主題である。キリストのこの働きは、失われ滅びつつあるこの世の者を救うだけでなく、罪がなく忠実な他世界の住民にそれを確認させるべきである。このお方は不従順な者が神に対して忠誠に戻るための道を開かれた。(同上 1881年1月11日)

11月7日

品性の恐るべき特徴

「高ぶりは滅びにさきだち、誇る心は倒れにさきだつ。」(箴言 16:18)

使徒〔パウロ〕は、この終わりの時代に、人々は「耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、……教師たちを寄せ集め」るであろうと宣言している(テモテ第二 4:3)。なぜなら、彼らは耳ざわりのよい話を聞きたいからである……〔このような偽りの宗教教師たち〕は、信心のかたちをもち、一見魂の益のために労しているように見えるが、その一方心では、強欲で、利己的で、安逸を愛し、自分自身の献身していない心の衝動に従っている。彼らはキリストとその教えに対立しており、キリストの柔和とへりくだった精神に欠けている。

終りの時代のための聖なる真理を担っている説教者たちは、すべてこれらのこととは反対の者でなければならない。そして、自分の実際的な信心の生活によって、偽りと真の羊飼いの間に存在する区別がはっきりとつけられなければならない。良い羊飼いであられるお方は、失われている者を探し、救うために来て下さった。このお方はご自分の働きの中で、ご自分の羊を愛するその愛を表してこられた。羊飼いの長の下で働くすべての羊飼いは、このお方の特徴をもっているのである。彼らは柔和で心のへりくだったものとなる。幼子のような信仰が魂に休息をもたらし、また愛によって働き、いつも他の人々のために関心をもっている。もしキリストの御霊が彼らのうちに宿っているなら、彼らはキリストに似た者となり、キリストの働きをする。キリストの牧師だと公言する多くの者は、自分たちの主人を誤解してきた。彼らはキリストに仕えていると主張するが、自分たちが呼び集められているのが、サタンの旗の下であることに気がついていない。彼らは世的には賢く、争いと見せびらかしを渴望し、偉大な仕事をしていると見せかけようとする。しかし、神は彼らに用はない。行動を生じさせた動機が、その働きに性質を与えるのである。人は欠陥を見分けられないかもしれないが、神はそれに注目なさる。

真理の手紙によって、信仰を固くとなえ、最終的に救われる魂が確信するかもしれない。しかし、彼らに真理を提示した利己的な説教者は、彼らの改心のために、神のみ前に功績を得ることはない。このお方はシオンの城壁の見張り人だと公言していながら、彼が不忠実であったことを裁かれる。心の誇りは品性の恐るべき特徴である。「誇る心は倒れにさきだつ」(箴言 16:18)。これは、家族においても、教会においても、国家においても真理である。(教会への証 4巻 376, 377)

誇る者に目がくらまない

「主をおのが頼みとする人、高ぶる者にたよら……ない人はさいわいである。」(詩篇 40:4)

主の民だと公言する人々から、世の知恵があまりにも高く評価され、上よりの知恵があまりにも求められていない。人々はクリスチャンの教理の知識をもっているかもしれないが、なおクリスチャン経験はほとんど理解していない。多くの人々は世の事柄には、鋭く、利発で、機敏であるが、その一方で彼らは神の奉仕においてはほとんど関心も機転も精力も表さない。彼らは、サタン の考案を識別するために見張ったり、どのようにして敵に作戦に打ち勝つかを研究したりすることに、自分たちの鋭さと利口さを働かせない。彼らは賢明な計画を立て、神のみ事業を前進させるべく熱心で計画的な努力を払うために、自分たちのすべての力を結集しない。世の一時的なことに働かされる知恵は、めったに靈的かつ永遠の事柄には捧げられない。こうして能力のある人々は、自分たちが靈的であるよりは肉肉であるという証拠を示している。

すべての人は、その職業が何であろうと、神のみ事業を自分の第一の関心事とすべきである。彼は自分のタラントを主のみ働きを前進させるために働かせるばかりではなく、この目的のために自分の能力を培うべきである。多くの人々は、自分が世において成功する働き人となるため、商売や職業を身につけるのに、数か月また数年を捧げる。それでいながら、自らを主のぶどう畑において成功する働き人となすこれらのタラントを培うためには、特別な努力を払わない。彼は、自分の力をゆがめ、自分のタラントを乱用する。彼は自分の天の主人に対する無礼を示してきた。これは神の民だと公言する者の大きな罪である。彼らは自らに仕え、また世に仕える。彼らは如才なく、成功した資産家だという名をもっているかもしれないが、神がご自分の奉仕のために自分に与えて下さったタラントを用いることによって増し加えることを怠る。世俗の機転は、働かせることによってますます強くなり、靈性は、不活動によってますます弱くなる。

今は、これらのタラントが神のみ事業において用いられるならば、このお方の王国を築きあげるのに大いなる効果をもたらす時である……

わたしたちは永遠のために築いている。今、わたしたちがどのように建てるかに注意する重要性が倍増している。(ビュー・アッド・ヘルド 1884年1月1日)

11月9日

イエス・キリストの模範

「わたしは、自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考えでするのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。」(ヨハネ 5:30)

キリストの聖なる生涯と品性は、忠実な模範である。ご自分の天父への信頼は、限りがなかった。このお方の従順と服従は、無条件で完全であった。このお方は仕えられるためではなく、他の人々に仕えるために来られた。このお方はご自身の意志を行うためではなく、ご自分を遣わされた方の意志を行うために来られた。万事において、このお方は正しい裁きを行うお方にご自身を服従させられた。世の救い主の唇からは、「わたしは、自分からは何事もすることができない」という言葉が聞かれた(ヨハネ 5:30)。

このお方は貧しくなられ、おのれをむなしくされた。このお方は飢えて、しばしば渴いておられ、そして多くの場合、ご自分の働きにおいて疲れておられた。しかし、このお方にはご自分の頭を横たえる場所がなかった。冷たく湿っぽい夜陰がこのお方のまわりを囲むとき、地面がしばしばこのお方の寝床であった。それでいてなお、このお方はご自分を憎む人々を祝福された。なんとというご生涯であろう!なんとという経験であろう!キリストに従うと公言するわたしたちは、わたしたちの主がなさったように、つぶやくことなく、快活に、欠乏と苦しみに耐えることができるであろうか。わたしたちは、杯を飲み、バプテスマを受けることができるであろうか。もしそうであれば、わたしたちはこのお方の天の王国でこのお方の栄光に共にあずかることができる。もしできなければ、このお方にあずかるものは何もない。(教会への証 3 巻 107)

人々は、人間の教師から与えられる可能な限りすべての知識を得ることができる。しかし、なお神が彼らに要求なさるさらに大きな知恵がある。モーセのように、彼らは柔和と心のへりくだりと自己に信頼しないことを学ばなければならない。わたしたちの救い主ご自身は、人性のためのテストを耐えて、ご自分から何もすることができない、とお認めになった。わたしたちもまた、人性だけでは、何の力もないことを学ばなければならない。人は神性にあずかるものとなって初めて有能になる。……

自分自身を区別したいというすべての利己的な願いをわきへおこう。人間からの提案をすべて、聖霊の導きに信頼して、神の許へ持っていきなさい。すべてのきよくない野心は取り除かれるべきである。さもなければ、主は、「わたしは愚かな者の根を張るのを見た、しかしわたしは、にわかにもそのすみかをのろった」と仰せになる(ヨブ 5:3)。(同上 346-348)

パウロの模範

「わたしは日々死んでいるのである。」(コリント第一 15:31)

主は、わたしたちがご自分のみ旨に従順であること、ご自分の御霊によって征服され、ご自分の奉仕のために聖化されることを要求なさる。利己心は捨て去られなければならない。そして、わたしたちはキリストが勝利されたように、自分たちの品性の一つ一つの欠点に、勝利しなければならない。この働きを成し遂げるために、わたしたちは日々自己に死ななければならない。(教会への証 4 巻 66)

自己に対する勝利のため、聖潔と天のための苦闘は、一生涯の苦闘である。絶え間ない努力と継続的な活動なくして、聖なる生活において前進すること、勝利者の冠を得ることはできない。

人間がより高い状態から墮落したという最も強力な証拠は、戻るためにこれほどまでの代価がかかるという事実である。戻るための道は、わずかずつ、毎時間、激しい戦いによってのみ、得ることができる。意志の一瞬の行為によって、人は自らの身を悪の力のうちにおくかもしれないが、これらのかせを断ち切り、より高く、より聖なる生活を得るためには、意志の一瞬の行為以上が要求される。目的が形成され、働きは始まるかもしれない。しかし、その達成には、骨折り、時間、辛抱、忍耐、そして犠牲が要求される。

数え切れないほどの誘惑にからみつかれても、わたしたちは断固として抵抗しなければならない。さもなければ征服されてしまう。わたしたちは生涯の終りになって、働きが終わっていないければ、それは永遠の損失となる。

パウロの聖化は、自己との継続的な戦いの結果であった。彼は、「わたしは日々死んでいる」と言った(コリント第一 15:31)。彼の意志と彼の願いは、毎日義務と神のみ旨に対して戦った。傾向に従う代わりに、彼は、神のみ旨がどんなに自分自身の性質にとって十字架につけるようなものであっても、それを行った。

神はご自分の民を一步一步導かれる。クリスチャン生涯は、戦いと進軍である。この戦闘において、放免はない。努力は絶えざる辛抱強いものでなくてはならない。わたしたちがサタン誘惑に対する勝利を維持するのは、やむことのない努力によってである。クリスチャンの高潔さを、抵抗できない精力をもって求め、断固とした動かない目的をもって維持しなくてはならない。

だれも自分自身のための断固とした辛抱強い努力なくして、上に向かって生まれることはない。すべての人が自分自身でこの戦いにたずさわらなければならない。個々に、わたしたちはこの苦闘の問題に対して責任がある。(教会への証 8 巻 313, 314)

11月11日

知恵の教訓

「主を恐れることは知恵の教訓である、謙遜は、榮譽に先だつ。」(箴言 15:33)

この時代に、「偽りの『知識』(誤って科学と呼ばれている：英訳)」である人間の空論のまぶしい光にくらまされている人々が多い。彼らは網を見分けることができず、目隠しされているかのように、やすやすとその中へ歩いていく。神は人間の知力が造り主からの賜物として保たれ、真理と義の奉仕に用いられるよう計画された。しかし、それが偶像化され、偽りの宗教の奉仕に用いるためにサタンの宮に捧げられるとき、知性は無知よりも大きな害をなす。(パイブル・エー 1887年2月1日)

自己をわきへ置き、聖霊が自分たちの心に働きかける余地をつくり、主が課される必要な訓練につぶやいたり、途中でくじけたりせずに、完全に神の奉仕のために聖化された生活を送る人の有用性には限りがない。もし彼らが主の譴責にくじけたり、心をかたく頑固になったりしないならば、主は、老若共に、時々、日々に教えて下さる。このお方はご自分の救いを人の子らに表したいと切望しておられる。そしてもしこのお方の選ばれた民が障害物を取り除くならば、このお方は救いの水を人間の水路を通して豊かな流れのうちに注ぎ出して下さる。

人間の学校で自分たちの教育を完了することによって、神の高められた働きのための有能さを求めている多くの人々は、自分たちが主の教えようとなさるものと重要な教訓を学ぶことに失敗したことに気づくようになる。自らを聖霊の印象の下に従わせることを怠ることによって、また神のすべてのご要求に対する従順のうちに生活しないことによって、彼らの霊的な有能さは弱くなる。彼らは主のために成功する働きをなすために彼らが持っていた能力を失ってしまう。キリストの学校を欠席することによって、彼らは教師であるお方のみ声の響きを忘れてしまったので、このお方は彼らの道を導くことがおできにならないのである。(クリスチャン教育の基礎 346)

敬神と宗教経験は、まさに真の教育の基礎の根底にある。(クリスチャン教育 51)

救いのために低くされ、テストされる

「あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。」(申命記 8:2)

神はご自分の民を、一步一步導かれる。このお方は心のうちに何があるかをあらわすように意図されたさまざまな点に彼らを導かれる。ある者は、一つの点において耐えるが、次に落ちてしまう。一つ進むごとに、心は少しずつ厳密にテストされ、試される。神の民だと公言する人々は、もし自分たちの心がこの厳しい働きに反対しているのがわかったなら、自分たちが主の口から吐き出されたくなければ、勝利するためになすべき働きがあることを確信すべきである。御使は次のように言った、「神はご自分の民の一人びとりをテストし、試すために、ご自分の働きを少しずつ厳密に進めていかれる」。ある者は、一つの点においては喜んで受け入れるが、神が彼らを次の試金石となる点に導かれると、それにひるんでしり込みする。なぜなら、それが直接、大事にしている何かの偶像を打つのがわかるからである。ここに彼らは自分たちの心の中で、何がイエスを締め出しているかを知る機会がある。彼らは何かを真理よりも高く評価している。そして彼らの心はイエスを受け入れる準備ができていない。個々人はある一定期間、彼らがすすんで自分の偶像を犠牲にし、真の証人の勧告に注意を払うかどうかを見るためにテストされ、試される。もしだれでも、真理に従うことによって精錬していただき、自分たちの利己心、誇り、悪感情に打ち勝とうとしないなら、神の御使たちは次のように告訴する。「彼らは偶像に結びつらなつた。そのなすにまかせよ」、そして自分たちの罪深い特徴を征服しないこれらの人々をそのまま悪天使たちの支配にまかせて、自分たちの働きを続けていく。すべての点に達し、すべてのテストに耐え、どのような代価を払っても勝利する人々は、真の証人の勧告に注意を払ってきた。そして、彼らは後の雨を受け、こうして昇天にふさわしいものとされるのである。

神はこの世においてご自分の民を試される。ここは、神のみ前に出るのにふさわしくされるための場所である。ここ、すなわちこの世の、この最後の時代において、人々は何の力が自分たちの心に影響を与え、その行動を支配しているかを示すようになる。もしそれが神聖な真理の力であれば、それは良い働きへ導く。それは受けるものを高め、彼をその神聖な主のように、高尚な心をもった寛容な者とするのである。(教会への証 1 巻 187,188)

11月13日

すべての良きものは満たされる

「謙遜と主を恐れることとの報いは、富と誉と命とである。」(箴言 22:4)

わたしたちはイエスを日々に、時々信頼する必要がある。このお方はわたしたちの日が続くと共にわたしたちの力も続くと約束された。このお方の恵みによって、わたしたちは現在のすべての重荷を負い、その義務を果たすことができる。多くの人々は将来の問題を案じて押しつぶされている。彼らは絶えず明日の重荷を今日に持ち込もうとしている。しかし、イエスは今日一日のためだけに恵みを約束しておられる。このお方は明日の思いわずらいや問題で自ら重荷を負うことがないようにと命じておられる。

自己称揚は、不信と同様に、多くの祝福をわたしたちから奪う。主はもしわたしたちがこのお方の前に自分たちの心をへりくだらせ、このお方の救いを見るときに、人ではなく、このお方に栄光を帰して、へりくだりを維持するならば、わたしたちのために働いて下さる。わたしたちは主がわたしたちを祝福して下さったときに、あまりにもたやすく自己を高めるために、自分自身から多くの祝福を奪っている。

わたしたちがキリストと密接に結合するとき、わたしたちの自信は消失する。わたしたちの自己尊重の言葉は語られずにすむ。わたしたちは自らを力強い神のみ手の下にへりくだらせる。わたしたちは祈り、信じ、親切で真実な優しい心になり、キリストがわたしたちを愛されたように互いに愛するようになる。わたしたちが真理に生きるとき、不親切な批判は死滅する。

キリスト教は、良い決心をすること、発作的で長続きのしない経験をもつこと以上を意味する。わたしたちの思想はキリストにとりにされなければならない。着実に辛抱強くキリストのような思想が培われなければならない。熱心な祈りがなくてはならない。祈りのうちに神と格闘することによって、敵の手を弱めなさい。あなたの必要なものをキリストの名によって祈り、それから、このお方の力のうちに、自らの行動をそれに調和したものとすることによって、自分の祈りに応えなさい。あなたが自己否定のうちにキリストに従わない限り、あなたの祈りは神のみ座に届かないことを覚えなさい。キリストは自己否定の道をあなたに指し示し、次のように言われる、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」(マタイ 16:24)。このお方はご自分の要求を行おうとする人々の能力のために、豊かな備えをしてこられた。(パンツィク・エオン・レオダー-1902年6月5日)

かつて戦われた中で最大の戦い

「謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。」(ペテロ第一 5:5)

誇りとこの世への愛着は、靈性と恵みにおける成長にとって非常に大きな妨げとなるわなである。

この世はクリスチャンの天国ではなく、単なる神の作業場であって、ここでわたしたちは聖なる天での罪のない御使たちと一つになるのにふさわしくされる。わたしたちは絶えず思いを、高尚な無私思想へと訓練しているべきである。(教会への証 2 卷 187)

S兄弟は、多くのことにおいて弱い。もし神が彼に隣人の正体を暴き、非難するように、また兄弟を譴責し、矯正するように、あるいは自分の敵たちに抵抗し、滅ぼすように要求なさるのであれば、それは彼にとって比較的、自然でたやすい働きであろう。しかし、自己に対する戦い、自分自身の心の願望と愛情を征服し、心の秘かな動機を探りだして、支配することは、もっと困難な戦いである。彼はこのような戦いにおいて忠実であることに、どれほど気乗りがしないことであろう!

自己に対する戦いは、かつて戦われた中で最大の闘いである。神のみ旨にすべてを明け渡し、自己を降伏させること、そして清く、平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ちた愛を持ちつつ、謙遜をまとうことは、簡単に達成できることではない。それでいながら、ここで完全な勝利者となることは、彼の特権であり、また彼の義務である。魂は知識と真の聖潔において新たにされることができる前に、神に服さなければならない。(同上 3 卷 106,107)

心はよろずのものより偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。宗教を公言する人々は、自分が果たして信仰のうちにいるかどうかを調べるために、自分自身を厳密に吟味しようとしなさい。そして多くの人々が、偽りの希望により頼んでいることは、恐るべき事実である。ある人々は何年も前の古い経験により頼んでいる。しかし、この心を探る時に引きもどされ、すべての人が日ごとの経験をもつべきときになると、彼には語る事が何もない。彼らは真理を公言することが自分たちを救うと考えているかのようである。彼らが神の憎まれるこれらの罪を征服するとき、イエスは入って来て彼らと食を共にし、彼らもこのお方と食を共にする。彼らはそのとき、イエスから神聖な力を得て、このお方のうちに成長するようになる。(同上 1 卷 188)

11月15日

わたしたちのリバイバルの必要

「主よ、わたしはあなたのことを聞きました。主よ、わたしはあなたのみわざを見て恐れます。この年のうちにこれを新たにし、この年のうちにこれを知らせてください。怒る時にもあわれみを思いおこしてください。」(ハバクク 3:2)

わたしたちの間における真の信心のリバイバルが、わたしたちのすべての必要の中でもっとも大きく、最も切迫したものである。これを求めることがわたしたちの第一の働きとなるべきである。主の祝福を得るための熱心な努力がなければならぬ。これは神がわたしたちにご自分の祝福を注ぎたくないからではなく、わたしたちがそれを受ける準備ができていないからである。わたしたちの天父は、地上の親が自分の子供たちに良い贈り物をしたいと思う以上に、ご自分に求める人々に聖霊を与えたいと思っておられる。しかし、告白と、謙遜と、悔い改めと、熱心な祈りによって、神がご自分の祝福をわたしたちに与えると約束された条件を満たすのは、わたしたちの働きである。リバイバルは祈りに対する答えとしてのみ期待する必要がある。民が神の聖霊にあまりにも欠乏している間は、み言葉の説教を感謝することはできない。しかし、聖霊の力が心に触れるとき、与えられた説教は効果を及ぼさずにはいない。神のみ言葉の教えによって導かれ、聖霊の現れを伴って、健全な思慮分別を働かせて、わたしたちの集会に出席する人々は、尊い経験を得て、家に戻るとき、健全な感化力を発揮する準備ができるのである。

年老いた旗手たちは、祈りにおいて神とどのように格闘し、聖霊の注ぎを享受するということがどういうことかを知っていた。しかし、これらの人々は活動の舞台から過ぎ去っている。そしてだれが彼らの場所を埋めるために、登場するであろうか。起こりつつある世代はどうであろうか。彼らは神に改心しているであろうか。わたしたちは天の聖所で進められている働きに対して目覚めているであろうか。あるいは、わたしたちが立ち上がる前に、何か強制力が教会に及ぶのを待っているのだろうか。……

わたしたちは個々に働きに入らなければならない。もっと多く祈り、語ることはもっと少なくなければならぬ。(セレクトド・メッセージ 1巻 121, 122)

不平とあら探しをやめ、これまでこのように無駄にするよりもさらに悪い過ごし方をしてきた時間を、主の前からの慰めの時を求めて生きた信仰の祈りのうちに過ごそうではないか。わたしたちはひとりの人のように、一致して、神の民の魂に神の恵みを下さるように、そしてこの年のうちにこのお方の働きをよみがえらせて下さるように呼び求めようではないか。(福音宣伝者 224, 225. [1892版])

引き上げられるために低くされる

「人が低くされるとき、あなたはこう仰せられる、引き上げるであろう。そして彼はへりくだる者を救われる。」(ヨブ 22:29 英語訳)

幸福になるために、わたしたちは十字架の下で自己否定を学ばなければならない。(パウロの生涯からの学び 284)

ときには自分たちの無価値さを深く自覚して、魂を突き抜けるような恐怖感を与えることがあるが、それは神がわたしたちに対して変わられたり、わたしたちが神に対して変わったりした証拠ではない。ある種の感情の激しさを保つために思いを引き締めようと努力すべきではない。わたしたちは昨日感じた平安や喜びを今日は感じないかもしれないが、信仰によってキリストのみ手をつかみ、光のうちにあるのとまったく同様に闇のうちにあってもこのお方に信頼すべきである。

サタンは次のようにささやくかもしれない、「あなたはあまりにもひどい罪人であり、キリストもお救いになれない」と。あなたは自分が実際に罪深く、無価値であることを認める一方で、誘惑者に対して次の叫びを持って応じることができる、「贖罪の力によって、わたしはキリストをわたしの救い主として主張する。わたしは自分自身の功績ではなく、わたしを清めて下さるイエスの尊い血潮により頼む。この瞬間、わたしの魂はキリストにすがりつく」と。クリスチャン生活は、継続的な生きた信仰の生涯でなければならない。屈しない信頼、キリストへの固執寄り頼むことが魂に平安と確証をもたらす。(清められた生涯 90)

もしわたしたちが自分自身の心を吟味し、自分たちの罪を捨て去り、自分たちの悪への傾向を正すことに集中しているならば、わたしたちの魂が虚無へと引き上げられることはない。わたしたちは自分を信頼せず、自分たちの力は神からであるという自覚を絶えず持つのである。

わたしたちは外からよりも中からの方をはるかにもっと恐れるべきである。力と成功を阻むものは、世からよりも教会自体からの方がはるかに大きい。(レクティド・メッセージ 1 巻 122)

わたしたちはへりくだった心で主を求めることを怠るために、多くの豊かな祝福を失う。わたしたちが誠心をもってこのお方のみ許へ行き、わたしたちの欠点を明らかにして下さることを求めるとき、このお方はご自分のみ言葉の鏡に映して、わたしたち自身の真の姿を示して下さる。そのとき、自分自身を神がご覧になるように見てから、自分たちがどのようなありさまの人であったかを忘れて立ち去るようなことをしないようにしましょう。欠点となっている自分たちの品性の特徴を厳しく調べ、それらを神のみ言葉のうちに提示されている型のようにして下さる恵みを求めようではないか。(レク・エオン・ハルト 1909 年 11 月 3 日)

11月17日

わたしたちの心を整える

「人の高ぶりはその人を低くし、心にへりくだる者は誉を得る。」(箴言 29:23)

主のみ前におけるへりくだりがあるべきである。神のイスラエルは衣ではなく、心を裂くべきである。幼子のような単純さは、まれである。人の賞賛が神のご不興よりも重んじられている。親愛なる兄弟姉妹がたよ、あなたの心を整えなさい。もろい命のひもが断たれて、保護されることなく、さばきの準備ができないまま墓に下ることのないように。あなたが神とやわらぎをなし、自らを世から引き離さないかぎり、あなたの心はますますかたくなになり、また偽の支柱、すなわち想像上の準備により頼むようになって、基盤のしっかりした希望を得るには遅すぎるときになって自分の過ちを見出すことになる。

斧が木の根元におかれなければならない。誇りと世俗は教会の中で容認されるべきではない。神をご自分の民から引き離したのはこれらのものである。彼らは教会のただ中に存在する誇りと世への一致に対して今まで眠っている。誇り、貪欲、利己心、世への愛着は絶えず増加加わっている。外見は心のあらわれである。心が真理に影響されるとき、世に対する死がある。そして世に対して死んだ者は、不信者の笑いやあざけりや軽蔑によって動かされることはない。彼らは世から分離して、自分たちのご主人であるお方に似た者になりたいと切なる願いを感じる。彼らは世の流行や習慣をまねるようなことをしない。彼らの前にはいつも神に栄光を帰し、不死の嗣業を得るといふ高尚な目的がある。そしてこれに比べれば、地上の性質をもつすべてのものは、無価値なものとして沈んでしまう。

あまりにも多くの人々が聖書をなおざりにする。彼らは聖書をなすべきほどに自分たちの研究課題、また生活の規則としない。特に青年たちはこの怠慢の罪が深い。彼らのうち多くは、他の本ならほとんど何でも読む時間を十分に見出すが、永遠の命を指し示す尊い本、終わりの日に彼らを裁く重要な本は、まったくと言ってよいほど研究しない。……すべての人が神の民の前にある激しい戦いにおいて自分自身の魂を強めるために、自分たちの希望の理由を理解しなければならない。これなしには、わたしたちは足りないことがあらわれ、堅固さと決意とをもつことができない。(ビュー・アofd・ワールド 1884年9月9日)

再び生かされた霊と心

「あなたの民が、あなたによって喜びを得るため、われらを再び生かされないのですか。」(詩篇 85:6)

主の律法を憎む人々が、真理を受けて真理に生きるための道徳的な勇気をもっている人々に対してわめきちらし、自分たちののろいを注ぎ出すがままにさせておきなさい。主がわたしたちの力であられる。自己を打ち立てるのではなく、わたしたちのうちに、またわたしたちによって、またわたしたちを通してみ旨をなしていただくのが、わたしたちにとって安全である。主が再び生かして下さる、悔いてへりくだる霊を失わないようにしなさい。(牧師への証 250)

わたしたちの世には、わたしたちが思うよりも神の王国に近い人々が大勢いる。この暗い罪の世において、主は多くの尊い宝石を持っておられ、彼らに主はご自分の使命者たちを導かれる。神はご自分の信じる者たちをご自分の道具としてお用いになり、彼らを通して命のパンに飢えている魂に奉仕をなさる。神の祭壇からの炭火に触れられたくちびるよりこぼれる希望と励ましの言葉は、疲れて悩む人々を再び生かし、慰める。(ビュー・アソド・ワルド 1904年 5月12日)

自己を視野から取り除こうではないか。キリストだけが高められるべきである。「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し」た方に、すべての目が向けられ、すべての心から讚美がのぼるように(黙示録 1:5)。

主を恐れる者の生活は、悲しい、陰うつな生活ではない。キリストのない生活こそ、顔つきを憂うつにし、人生を嘆きと悲しみに満ちた生涯とするのである。うぬぼれと自己主義にみちている者は、キリストとの生きた個人的交わりを持つ必要を感じない。まだ岩なるキリストの上に落ちていない心は自分の完全さを誇る。人びとは、威厳の保てる宗教を欲する。彼らは、自分たちのさまざまな性質を持ったまま、ゆうゆうと歩ける広い道を望む。彼らの利己的で人びとにもてはやされ、ほめられることを好む気持ちが、救い主を心からしめ出すことになり、キリストのないところは、いんうつと悲哀の場所となってしまう。キリストが魂の中に住んでくださるならば、それは喜びの泉となる。神を受け入れる者はすべて、神のことばの主題が喜びであることをさとののである。(キリストの実物教訓 142,143)

11月19日

わたしたちの焦点を合わせる

「あなたの目は、まっすぐに正面を見、あなたのまぶたはあなたの前を、まっすぐに見よ。あなたの足の道に気をつけよ、そうすれば、あなたのすべての道は安全である。右にも左にも迷い出てはならない、あなたの足を悪から離れさせよ。」(箴言 4:25-27)

すべての者は、「わたしは救われるために何をすべきですか」と問う必要がある。神はへりくだった、悔いた心、すなわち神のみ言葉に震える心を要求しておられる。わたしたちは、唯一神聖な祭壇からのみ、天のたいまつ、すなわち受け入れるならば、自分たちの無能さに対する十分な見解を与え、キリストの尊厳と栄光をわたしたちにあらわすたいまつを受けることができる。(ハイヴル・エー 1896年7月20日)

神が大いなる光をもって祝福してこられた男女は、自分の魂の敵のへつらうような偽りによって、自ら迷い出ることを許してしまうのであろうか。神の戒めへの不従順を伴うときに、彼らは名声、世的な誉れや繁栄を求めるのであろうか。彼らは自分たちの永遠の利益をゆずり渡し、自分たちの長子権を一杯のあつもので売り渡してしまうのであろうか。わたしたちは目覚めて、わたしたちを肉の安全というゆりかごの中で寝かしつけてしまう、世の危険な昏睡状態を振り払わないのであろうか。神の戒めを踏みにじる人々のあざけりにおびえるあなたがたは、誘惑に屈して臆病者になり、あなたの稀な信仰を笑う隣人の非難に耐えるよりも、神の恩寵を失うのであろうか。神の御霊はいつまでも人と争われることはない。招きを軽んじる者たちは、神が自分たちの救いのために送られる最後の憐れみのメッセージをあざけり、祝福の晩餐を味わうことはできない。憐れみ深い救い主イエスは、わたしたちの世に「さあ、おいでください。もう準備ができましたから」という招待状をすべての人に送ってこられた(ルカ 14:17)。あなたは招待を拒んだユダヤ人の真似をするのであろうか。わたしたちに招きは与えられている。そして主はあなたがたがご自分の言葉に恐れおののき、それによってご自分があなたの心のうちに望みと信仰と聖なる信頼をともすことができるようにと望んでおられる。このお方はあなたにまず神の国と神の義を求めよ、とお命じになり、そのとき、必要なものはすべて添えて与えられると約束しておられる。このお方はあなたの前にパラダイスの栄光を明らかにして下さる。そこで問われるのは、あなたがこのお方の招きを受け入れるかどうか、ということである。(ビュー・アソッド・バウル 1895年11月5日)

主は聞かれる

「主は……苦しむ者の叫びをお忘れにならない」（詩篇 9:12）

信仰のうちに捧げられる一つ一つの祈りは、嘆願者を疑いと人間の感情を超越させる。祈りは闇の権力との戦いを再び始め、忍耐強く試練に耐え、キリストの良き兵士として困難に耐える力を与える。

あなたが自分の疑いや恐れに相談している間、あるいは自分が信仰をもつ前にはっきりと見えないことを全部解決しようとしている間は、あなたの困惑はただ増し加わり、深まっていくばかりである。もしあなたが、ありのままの無力さと依存とを感じて、神のみ許へ行き、へりくだった信頼の祈りのうちに、この無限の知恵をもち、被造物のうちにすべてをご覧になり、ご自分のみ旨とみ言葉によってすべてのものを統べ治められるお方に、あなたの必要を知らせるならば、このお方はあなたの叫びに応じることがおできになるし、そうしてくださるのであり、またあなたの心の中とあなたの周り一面を光が照らすようにして下さる。なぜなら、真心からの祈りを通して、あなたの魂は無限の方の思いとつながりを持つようになるからである。自分の贖い主のみ顔があなたの方へ憐れみと愛のうちに寄せられているとき、目立つような証拠はないかもしれないが、それでもその通りなのである。このお方の目に見える手の感触はないかもしれないが、しかし、このお方のみ手は愛と憐れみ深い優しさのうちにあなたの上におかれている。……

あなたは絶えず見張っている必要がある。さもないとサタンが自分の狡猾さを通してあなたを欺き、あなたの思いを墮落させて、矛盾とはなはだしい闇へと導くことになる。あなたの見張りは、神への謙遜な依存の精神によって特徴づけられているべきである。それは誇り高い、自己依存の精神ではなく、自分自身の弱さに対する深い自覚と、神の約束を信じる幼子のような信頼をもってなされるべきである。（福音宣伝者 320,321）

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい」（ピリピ 2:12）。あなたが間違いを犯すことがないように、また主のみ名を汚すことがないように、恐れなさい。このお方には救う力があることを信じて、このお方に叫び求めなさい。これがわたしたちに欠乏している謙遜である。人間の目の前に自らを並べ立てて、義に対する称賛を勝ち取ろうとする、高ぶった謙遜ではない。わたしたちは医者であり回復者であられるお方を必要としている。そしてわたしたちがこのお方の恵みを嘆願しながら、キリストの許へ来るとき、慰め主は「わたしの平安をあなたがたに与える」というこのみ言葉をわたしたちの魂の中に吹き込んで下さるのである（ヨハネ 14:27）。（バプル・エウ 1892 年 6 月 1 日）

11月21日

永遠の最善を目指して

「へりくだって貧しい人々と共におるのは、高ぶる者と共について、獲物を分けるにまさる。」(箴言 16:19)

すべての教派の伝道において、あまりにも自己が多く、あまりにもイエスが少ない。主は、ご自分のメッセージを宣布するのに、謙遜な人をお用いになる。キリストが王の偉大さのうちに、地上の偉人たちを伴う壮麗さをもって来られたならば、多くの人々がキリストを受け入れたことであろう。しかし、ナザレのイエスは、外見の栄光の誇示をもって感覚をくらすことなく、またこれを彼らの敬神の土台とはなさらなかった。このお方はへりくだった人間として、人類の贖い主と同時に、教師また模範者となるために来られたのであった。このお方が壮麗さを奨励されたなら、またこのお方が地上の偉人たちの随行団を従えてきたら、どのようにして謙遜をお教えることができたであろう。どのようにして、山上の垂訓でなされたように燃えるような真理を提示することがおできになったことであろう。このお方の模範は、このお方がご自分に従うすべての者に模倣することを望まれる模範である。もしこのお方が高められ、地上に王として住まわれたなら、人生における身分の低い者たちの希望はどこにあったことであろう。イエスは世の人の必要を、彼ら自身よりもよく知っておられた。このお方は天の装いをまとった御使として来られたのではなく、人として来られたのであった。しかしなお、ご自分の人性に、生来固有の力と、人がこのお方を愛しながらも畏敬を覚える偉大さとを結合しておられた。このような麗しさと、このような気取らない装いをもっておられながら、このお方は人々の間を、天来の王の持つ尊厳さと力をもって行動されたのであった。(医事伝道 22, 23)

あなたは、柔和で心のへりくだったキリストから学ぶために招かれている。なんと尊い教訓よ!もしよく学ぶならば、それは人生全体を変えるのである。(教会への証 2巻 188)

わたしたちが、キリストが働かれたように働くためには、自己が十字架につけられなければならない。それは痛みを伴う死である。しかし、それは命、すなわち魂にとって命である。(教会への証 6巻 125)

わたしたちの唯一の安全は、一瞬一瞬を神の恵みによって保護されていること、そしてわたしたちが悪を善と言い、善を悪と呼ぶことのないように、自分自身の霊的な視力を取り除かないことにある。……

わたしたちの努力、自己否定、辛抱は、わたしたちが追い求めている目的の無限の価値に見合うものでなければならない。(福音宣伝者 205[1892版])

悔悟をもって来る

「この所と、ここに住む者を責める神の言葉を、あなたが聞いた時、心に悔い、神の前に身をひくくし、わたしの前にへりくだり、衣を裂いて、わたしの前に泣いたので、わたしもまた、あなたに聞いた、と主は言われる。」(歴代志下 34:27)

一人ひとり個々の教会員が岩なるキリスト・イエスの上に建てる必要がある。すべての人の霊的な基礎をねじり、極限まで試すことになる嵐が起こりつつある。であるから、砂の寝床を避けなさい。岩を探し求めなさい。深く掘りなさい。あなたの基礎を確かなものにしなさい。建てなさい、ああ、永遠のために建てなさい!涙をもって、心からの祈りをもって建てなさい。(教会への証 5巻 129, 130)

イエスはそれほどの価を払ってあがなった者が、敵の誘惑にもあそばれるのをお望みにならない。彼はわたしたちが負けて滅びるのを好みにならない。ししの穴でライオンの口をふさぎ、忠実な証人と共に燃ゆる炎の中を歩まれたキリストは、それと同じように喜んで、わたしたちの性質のすべての思いを征服して下さるのである。今日、彼はあわれみの座に立って、その助けを求める人々の祈りを神にささげておられる。キリストは悔いて泣く者をひとりとして、退けるようなことをなさらない。ゆるしと回復を求めて主のもとに来るすべての者を、惜しみなくゆるして下さる。キリストは知っておられることを全部人にはお告げにならないが、恐れる魂に勇気を持つようにお命じになる。望む者は神の力をつかみ、キリストと和らぐことができ、主もまた彼と和らされるのである。

イエスは、避け所を求めて来る魂を告発と口論から、救って下さる。人間も悪天使もこれらの魂を非難することができない。キリストは神であり、また人であるご自分の性質に、彼らを結合させて下さる。その人々は、神のみ座から出る光の中に立ち、罪を負う偉大な御方の側に立つのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 60,61)

危機はわたしたちに迫っている。わたしたちは今、家庭において、涙と断食と祈りをもって神を求めている必要がある。(説教と講和 2巻 70)

わたしたちは幼子のように神のみ許へ来なければならない。そしてわたしたちが自分の貧しさと弱さを自覚するとき、それをわたしたちにとって何の力にもならない人に話すのではなく、神に話さなければならない。なぜなら、このお方はわたしたちのために何をなさるべきかをまさにご存じだからである。(パイプ・オブ・グレース 1892年6月1日)

11月23日

わたしは主によって誇る

「わが魂は主によって誇る。苦しむ者はこれを聞いて喜ぶであろう。」(詩篇 34:2)

他の人々が、あなたがイエスと共にいて、そのお方から学んだ者であることを知るようになるため、あなたの管理職とあなたの奉仕とあなたの扱うすべての仕事、厳格な正直さ、および真理の聖化する感化力によって特徴づけられるものとしなさい。あなたのなすすべてのことにおいて実りある者となりなさい。一つの利己的で貪欲な行為も、天の書のあなたの名前のところに記録されないようにしなさい。あなたが神の子であると公言する一方で、実は世に仕えるようなことを許してはならない。心と魂と思いと力をもって神に仕えなさい。そのとき、天の御使たちはあなたのそばに来て、敵に対してあなたのために旗印を掲げて下さる。

あなたの贖いのためにご自身を下さったお方の奉仕に、あなたの心と命を尽くして捧げなさい。敵を失望させなさい。彼の計画を実行するための彼の道具となることを拒否しなさい。サタンがあなたに提供し、もし受け入れるならあなたの宗教経験にとって呪いとなることわかる資金的な利便に背を向けなさい。そのとき、あなたは心の清さをもって次のように言うことができる、「わが魂は主によって誇る」(詩篇 34:2)。あなたの生活の中に、欺きの発案や奇策や不正な陰謀やたくらみがないようにしなさい。他の人のうちにあれば、あなたが責めるようなすべてのことから離れなさい。(レビュー・アンド・ヘルド 1905年4月27日)

アブラハムのように、今日も、なお、多くの人々が試みを受ける。彼らは、天から直接語られる神の声を聞かないが、神は、神のみことばの教訓と摂理のできごとによって彼らを召される。富と栄誉を約束する職業を捨てて、気の合った有益な仲間を離れ、親族と別れ、克己と困難と犠牲だけを要求するように思われる道に進むように要求されるであろう。神は、彼らに仕事をさせようとしておられる。しかし、安易な生活、友人や親族の感化は、その働きを完成するのに必要な品性の発達を妨げるのである。神は、彼らを人間的感化や援助から遠ざけて彼らに神の助けの必要を感じさせ、ただ神にだけ頼るよう導いて、彼らにご自身を啓示しようとなさるのである。(人類のあけぼの上巻 124)

すべてのタラントの与え主を高める

「だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」(マタイ 23:12)

クリスチャン人生において前進するとき、あなたはたえずキリストの満ちみちた徳の高さにまで至るまで成長していく。自分の経験において、あなたは人知を超える神の愛の長さ、広さ、深さ、高さがどのようなものであるかを証明するようになる。あなたは自分の無価値さを感じるようになる。あなたが品性の完全を主張するような傾向はなく、ただ自分のあがない主の完全さを高めるばかりである。イエスの知識におけるあなたの経験が徹底的で豊かになればなるほど、あなたの自己に対する見解はますますへりくだったものとなる。あなたが十字架の足元に伏して低くなればなるほど、自分の贖い主に対する見解がますますはっきりとし、ますます高められる。神を最上に愛すること、そしてあなたの隣人をあなた自身のように愛することこそ、真の聖化である。聖書の改心は、利己心が一切なく、自己称揚も、また自慢げな聖潔の主張のない、継続的かつ永続的な活動へと導く。もしあなたが真に神に改心しているならば、あなたは真理を支持する力強い説得力のある感化力を発揮するのである。クリスチャンであるということがどういう意味であるかについての知的な知識は、どこへいこうとあなたを祝福してくれる。あなたに一タラント、二タラント、あるいは五タラントであろうと、神の恵みをむなしく受けることがないように、それらはすべて信頼して委ねて下さったお方の奉仕に捧げられる。わたしたちに与えられた光と知識にしたがって、わたしたちは他の人々の模範となるべきである。わたしたちは、世において自分たちを善のための力とし、周囲の人々を祝福し、高めるために、真理および真理の創始者であられるお方をしっかりとつかんでいなければならない。……

各々にその働きが与えられており、もし人が自分の働きを忠実さと熱心さをもってなすならば、その人は神の恵みの忠実な管理者なのである。

神はあなたのよい言葉や行いが、あなた自身に人からの讃美をもたらすように、あなたの光が輝くようにとは意図しておられない。そうではなく、あらゆる善の創始者が栄光を受けて、高められるのである。イエスはご生涯において、人間に品性の模範を残して下さった。世がこのお方を世の標準に従ってかたち造るには、どれほど力がなかったことであろう！世のすべての感化力は振り落とされたのであった。(レビュー・アンド・ヘルド 1888年10月16日)

11月25日

わたしたちの態度を見張る必要

「しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、『神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う』とある。」(ヤコブ4:6)

自分の過ちを認める人には、いつでも悔い改めと改革の希望がある。しかし、ある者はあまりにも誇り高いので、自分たちの過ちがはっきりと指摘され、自分でそれがわかることでさえ、自分たちが過ちのうちにいることを告白しない。全般的に、彼らは自分たちが過ちに陥りやすい人間であることを認める。しかし、彼は他人が、あたかも自分たちは過ちに陥ることがないかのように扱ってくれることを期待する。そのような告白は神には何の価値もない。……

このような種類の人々のために働くことは本当に落胆させる。彼らの誤った道が、彼ら自身にとっても他の人々にとっても危険なものとして指摘されると、彼らはそれを環境のせいにするか、あるいは自分たちこそ受けるべき譴責を他の人に受けさせることによって、言い訳しようとする。彼らはだれかが自分たちを罪人とみなそうとしていると怒りに満たされる。彼らを譴責する人は、彼らに個人的な害を働いたものとみなされる。

それでいながら、まさに自分自身の欠点には非常に盲目な人々こそ、しばしば他人の欠点に気づくのは早く、その人の言葉を批判し、その人が何かしたことやしなかったことに対して責めるのにすばやい。彼らは自分自身の過ちの方が、神の御目にははるかにもっと嘆かわしいということに気がつかない。彼らは、キリストが自分自身の目には梁があるのに自分の兄弟の目からちりを取り除こうとする者として表された人のようである。神の御霊は隠れた罪、もし抱いていれば増し加わり、魂を破滅させる、闇の中に隠された罪を明らかにし、譴責なさる。しかし、自分自身は譴責を超越していると思う人々は、神の御霊の感化力を拒否する。他人を矯正しようと彼らが努力するとき、彼らは忍耐や親切や敬意を表さない。彼らは無我の精神、優しさ、イエスの愛を示さない。彼らはするどく、耳触りで、その言葉や精神において明らかに邪悪である。

他人に対する不親切な非難の一つ一つ、自己尊重の思いの一つ一つは、「指をさすこと、悪い事を語ること」である(イザヤ58:9)。この自己を誇りのうちに高めること、すなわちあたかもあなたが過ちのないものであるかのように、他人の過ちを拡大することは、神にとって忌まわしいことである。(原稿リ-ス15巻173, 174)

日ごとに高められる

「主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。」(ヤコブ4:10)

今は、贖罪の大いなる日である。わたしたちが心を燃え立たせ、不一致を生じさせる最高位を争う戦いに従事するよりも、自分たちの魂を悩ませるほうがどれほど良いことであろう。決して、悪を思ったり、語ったりしてはならない。このようにする誘惑に会うとき、自ら神の許へ行き、この忌むべき罪に打ち勝つために助けて下さるよう求めなさい。神の御目の前に自らへりくだりなさい。そうすれば、このお方があなたを持ち上げて下さる。あなたが自らをへりくだらせるとき、このお方の憐れみ深いみ手がわたしたちを引き上げて下さることを讚美しようではないか。(ビュー・アンド・ヘラルド 1901年12月31日)

起きて、神があなたを助けて下さることを感じなさい。あなたの魂の言葉を、彼は必ず栄え、わたしはおとろえる、としなさい。「わたしに」あるいは「わたしは」をしかるべきところへおき、イエスを掲げ、イエスを語りなさい。もしこのお方があなたのすべての計画の根底におられなければ、すなわちもしあなたの目が神の栄光だけに向けられ、あなた自身はこのお方のすべての戒めに従順で、永遠の現実を視野にとどめていなければ、あなたは敗北者の側にいる。

すべての人に気持ちよく親切にいられる以上の責任を引き受けてはならない。あなたに、あなたとあなたの重荷を運ぶのにありあまる能力のあるお方の力と助けがなければ、あなたの重荷はあなたを押しつぶしてしまう。キリストはご自分のくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いと宣言なさる。イエス・キリストを通してあなたは品位をもってくびきを負うことができる。もしあなたが自らを高めるならば、そのときあなたは主があなたを低くする必要のある場所に自らをおくことになる。もしあなたが一步ごとに自らを低くするなら、イエスがあなたを引き上げて下さる。しかし、引き上げることはみなイエスにしていいただきなさい。そして、イエスがいつもくびきの重い一方を担って下さることを覚えていなさい。そのとき、もしあなたが神と共に働く共労者であれば、あなたには一步ごとに神聖な助け主がおられるのである。あなたは世にいながら、世のものとならずにいることができる。心が純潔で人の親切という乳に満たされ、主の道を守り、公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことができる。

あなたの生涯における一頁一頁を、朝ごとに新鮮で純潔できよいものとしなさい。それから、あなたの心を神の許へと高められた状態に保ちなさい。神に導きを求め、このお方の自由の御霊によって支えていただくことを求めた祈りを呼吸し、神の御使たちがあなたのかたわらに来て助けてくれるように、上よりの知恵を求めて祈りなさい。(原稿リ-ス12巻109, 110)

11月27日

神はあなたをかえりみて下さる

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」(ペテロ第一 5:6, 7)

もしあなたが自分の思いわずらいをいっさい、すずめが落ちることに注目なさる〔神〕にゆだねることができるなら、あなたはむなく信頼することはない。もしあなたがこのお方の確かな約束に安んじ、あなたの正直さを保つならば、神の御使たちがあなたのまわりにいる。神のみ前に信仰のうちに良いわざをなすつづけなさい。そのとき、あなたの歩みは主によって整えられ、このお方の繁栄のみ手があなたから取り去られることはない。

もしあなたが自分自身の歩みを選ぶにまかされたなら、この問題について不十分な働きをなし、すぐにも信仰の破船に会うであろう。いっさい重荷を負って下さるお方に、あなたのすべての思いわずらいと重荷をゆだねなさい。しかし、あなたのクリスチャン品性を傷つけるようなしみは一つも許してはならない。……わたしたちにはご自分の子らをかえりみて下さり、必要な時はいつでも、ご自分の恵みを十分に与えたいと願い、与えて下さる天父がおられる。わたしたちに関わる物事の取り扱いを、自らの手に引き受け、成功のために自分自身の知恵に頼るとき、わたしたちはまず不安になり、危険と損失を予期することができる。なぜなら、それはほとんど確実にわたしたちにおとずれるからである。

十分にしていますことのない神への献身がわたしたちに求められている。罪深い死すべき人間の贖い主が、わたしたちのために労し、苦しんでおられる間、このお方は自己を否定された。そしてこのお方の全生涯は骨折りと欠乏の光景の連続であった。このお方は、ご自分が地上での日々を安逸と豊かさの中で過ごし、この世の生涯のあらゆる楽しみと喜びをご自分のものとするもおできになった。しかし、このお方はそうならなかった。このお方はご自分の都合をお考えにならなかった。このお方はご自分を喜ばせるためではなく、善を行い、他の人々を苦しみから救うために、もつとも助けを必要としている人を助けるために、生きられた。このお方は最後まで耐え忍ばれた。彼はみずから懲らしめをうけて、わたしたちに平安を与え、わたしたちすべての者の不義を担われた。苦い杯はわたしたちが飲むようにと配分されていた。わたしたちの罪がそれを混ぜ合わせたのである。しかし、わたしたちの愛する救い主は、わたしたちの唇からその杯をとって、ご自分が飲んで下さり、その代わりにご自分がわたしたちに憐れみ、祝福、そして救いの杯を提供して下さるのである。(教会への証 2巻 72, 73)

迫害に直面するとき

「あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたに寄り頼む者のために人の子らの前に施されたあなたの恵みはいかに大いなるものでしょう。あなたは彼らを見前のひそかな所に隠して人々のはかりごとを免れさせ、また仮屋のうちに潜ませて舌の争いを避けさせられます。」(詩篇 31:19, 20)

非難と虚言はいつも義務を果たすのに忠実な人々についてまわる。義なる品性は、どんなに中傷や虚言によって評判が傷つけられていようと、その徳と卓越さの純潔を保つ。汚泥の中に踏みにじられても、天にまで高められても、クリスチャン生活は同じであるべきである。そして、誇りをもった潔白の自覚こそ、それ自身の報いである。敵の迫害は、実際に評判の基となっている基礎を試す。遅かれ早かれ、悪評判が真実であるか、あるいは悪意や復讐の矢で毒されていたかが世に明らかにされる。神に仕えることにおける一貫性だけが、そのような問題の決着をつける唯一安全な方法である。イエスはご自分の民が、ご自分のみ事業の敵に彼らの聖なる信仰を非難するすぎを与えることがないように大いに注意を払うことを望んでおられる。どんな悪い行為もその純潔に一つの汚名をも投げかけるべきではない。あらゆる議論が目的を果たさないとき、中傷者はしばしば自分たちのいらだたしい火を悩まされる神の僕たちの上にさらす。しかし、彼らの偽りの舌はついには、彼ら自身の上に呪いをもたらす。神は最終的に義人を擁護され、罪のない者に誉れを帰し、彼らを仮屋のうちに潜ませて舌の争いを避けさせられるのである。

神の僕たちはしばしば非難に苦しむ。しかし、大いなる働きは、迫害、投獄、むち打ち、また死のただ中で進められていく。時代と共に迫害の性質は変わるが、原則—その根底にある精神—は、数世紀前に主の選ばれた者たちを石で打ち、たたき、殺したのと同じである。

神の御子ほど、残酷に中傷を受けて、人々の間を歩んだ人は一人としていない。このお方はすべての点において、苦々しい非難に直面された。彼らはゆえなくこのお方を憎んだ。……しかしこのお方は、非難はクリスチャンの遺産の一部であると宣言し、ご自分に従う人々にいかにして悪意の矢に対応するかを勧告しながら、静かに彼らの前に立っておられた。(預言の霊 2 巻 212, 213)

11月29日

主は立ちあがられる

「主よ、立ちあがってください。神よ、み手をあげてください。苦しむ者を忘れないでください。」(詩篇 10:12)

嵐がせまっている。だから、わたしたちは神に対する悔い改めと主イエス・キリストに対する信仰を持つことによってその激しい怒りのために準備しなければならない。主は恐るべきほど地をふるうために立ちあがられる。わたしたちはいたる所に問題を見るようになる。幾千もの船舶が海の深みに投げつけられるであろう。艦隊は沈み、何百万という人命が犠牲になるであろう。火災が予期せぬところで勃発し、人の努力ではそれらを消すことができない。地の宮殿は炎の激怒の中で一掃される。鉄道災害がますます頻繁に起こる。旅行中の長蛇の列に一瞬の警告もなく、混乱、衝突、死が起こる。終わりは近く、恩恵期間は閉じようとしている。ああ、見出すことのできるうちに神を求めようではないか。このお方が近くおられるうちに呼び求めよう！預言者は次のように言っている、「すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることがあろう」(ゼパニヤ 2:3)。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1890年4月21日)

この地上歴史の終わりの光景において、戦争が激しく続くであろう。伝染病、疫病、飢饉があるであろう。海水がその境を越えてあふれるであろう。財産と生命が火災や洪水で滅ぼされるであろう。これはキリストがそのために死なれた魂は、キリストが彼らのために用意しに行かれた住まいにふさわしくされつつあるべきことをわたしたちに示すのである。(ホーム・ミッションナリ- 1897年7月1日)

わたしたちは悪に抵抗するためには、絶えざる見張りとし祈りを要求される時代に生きている。神の尊いみ言葉が、天の王に忠実でありたいと願う青年たちの標準となるべきである。彼らに聖書を研究させなさい。聖句を次々と暗記させ、主が何と言われたかについて知識を得させ、それからこのお方のみ言葉に厳密に従わせなさい。テストされるとき、裁判において、青年たちに神のみ言葉を彼らの前に広げさせ、そして謙遜な心をもって、信仰のうちに主の道を見つけ出すための知恵と、そこに歩むための力をこのお方に求めなさい。主はご自分の子らを愛される。そして母親が自分の子供に対するよりも強く深い愛情をもって愛されるのである。(ユース・インストラクター- 1887年8月3日)

「世は過ぎ去る」

「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。」(ヨハネ第一 2:15-17)

自分たちが世に仕えながら、なお神を愛することができる人々は、二心のものである。しかし、彼らは神と富に兼ね仕えることはできない。彼らは二心の者であって、世を愛し、自分たちの神への義務の自覚を全く失っているながら、なおキリストに従うものであると公言している。彼らはこちらでもなければ、あちらでもない。真理の純潔な原則への従順を通して、自分たちの手を清め、心を純潔にするのでない限り、彼らは両方の世界を失うことになる。……

真の信心を破壊しているのは、世俗の欲である。(教会への証 1 巻 531)

神は世から分離し、区別されている民を持たれる。だれでも、世の流行を真似したいという願いをいだくとき、このお方は彼らをご自分の子として認めるのをおやめになる。そして、彼らは世と闇の子となる。キリストを公言してきた人々が、実際にはこのお方を離れて、自分たちがイエスの恵みも柔和とへりくだりも知らないものであることを示す。彼らがこのお方と親しいならば、このお方にふさわしく歩むはずである。(レビュー・アンド・ワールド 1884 年 9 月 9 日)

ああ、キリストに従う人々が、今危険にさらされているのが、家や土地ではなく、株や麦畑、あるいは命そのものでさえなく、キリストがそのために死なれた魂であることを悟るならば！わたしたちはいつも日ごとに会う男女が、裁きを受けなければならないことを覚えているべきである。彼らはわたしたちが義務に不忠実であったかどうか、わたしたちの模範が彼らを真理とキリストからそらせたかどうかについてわたしたちに不利な証をするために、あるいはわたしたちの忠誠が彼らを義の道へ向けさせたという証を担うために、白い大いなる御座の前に立つのである。これらの魂は終りのない時を通じて生き、神と小羊に讃美を捧げるか、もしくは、悪人と共に滅びるかのいずれかである。キリストは彼らが祝福の永遠を楽しむことができるために苦しみ、死なれたのである。わたしたちは彼らの救いのためにどのような犠牲を喜んで払うであろうか。(同上 1886 年 1 月 9 日)

Good Way Series 研究 2-3



教会と残りの民 (Ⅲ)

3. 残りの教会

「キリストの弟子であると自称する人々の中に、常に二種類の人々がいる」(各時代の犬争闘上巻 36) ように、黙示録 14 章の三天使のメッセージを信じると告白する人々の中にも現在、二種類の人々がいます。預言はこの二種類のグループの間の重要な相違点を示しています。

「セブンスデー・アドベンチストという名の下でわたしたちを特別な民とさせる旗やしるしはあまり際立たせて持つべきではないと勧告している一団の群れがわたしに示された。……使徒ヨハネは神の残りの者を描写して、『ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』と語ったのであった(黙示録 14:12 欽定訳) (セクテッド・メッセージ 2 巻 385)。

類似した預言的記述の中で、E.G. ホワイト姉妹は二種類の群れを次のように描写しています。「わたしは、一群の人々がしっかりと守られて堅く立ち、確立された教団の信仰をぐらつかせようとする人々には目もくれないのを示された」(初代文集 420)。

初代文集 420 に示された「一群の人々」は、セクテッド・メッセージ 2 巻 385 の群れではありません。彼らは二つの異なる立場、すなわち正反対の立場をしめています。諸原則が問題となるころでは、互いにはっきりと対峙(たいじ)しています。この二種類の群れに対して別のあかしがあります。

「サタンは、一つの民としてわれわれに、われわれを戒め、譴責し、われわれの誤りを捨て去るように勧告するどんなものも持ち込まれないよう可能な限りのあらゆる手段を用意している。しかし、ここに神の契約の箱をになう民がある。……彼らは民にそのとがを示し、ヤコブの家にその罪を告げ示すであろう」(牧師への証 411)。〔この点に関する具体的な問題はのちほど取り扱います〕。

III- 預言されたふるい

「ふるい」という言葉の神学的な使用は、穀物をふるい分ける習慣からきています。イザヤ 30:28、アモス 9:9、ルカ 22:31 の霊をご参照ください。麦が脱穀されたあと、それはさらにもみ殻や小石を取り除くためにふるわれなければなりません（もみ殻はふるいの中身がくり返し投げあげられるときに、風によってもみ殻が吹きはらわれ、小石は網目を通して落ちます）。

ある人々は預言されているふるいについて、ふるいは教会を象徴し、教会の中に残っている者が麦であり、教会を離れるものはもみ殻であると主張します。しかし、このような結論は次の霊の光によって正当でないことがわかります。

キリストと使徒時代に、ユダヤ人のあいだで行われなければならなかったふるいと改革の働きに関して、神はアモスを通して預言的に語られました。

「見よ、わたしは命じて、人がふるいで物をふるうように、わたしはイスラエルの家を万国民のうちでふるう。ひと粒も地に落ちることはない…。その日には、わたしはダビデの倒れた幕屋を興し、その破損を繕い、そのくずれた所を興し、これを昔のように建てる」（アモス 9:9,11）。

使徒パウロは福音を受けて、ユダヤ教会から関係を断たれた人々によって実行されつつあった改革の働きの預言的な根拠を提示するために、このアモスの預言を引用しました。（使徒行伝 15:16 をご参照ください）。預言は、すべての麦はふるいに残って、ただもみ殻だけが落とされるとあります。しかし預言と手を携えていく歴史は、ユダヤ教会の指導者たちと民が教会に残り、キリストの弟子たちが教会を去ったことを示しています。組織に残ったのは、もみ殻である背信した大多数の群れでした。忠実な残りの者は別の一つの会衆を形成しました。また預言と歴史の間には何の矛盾もありません。麦を残してもみ殻を除去するためのふるいは、教会組織ではなく、真理です。このふるいに弟子たちは麦として残り、ユダヤ人たちはもみ殻としてふるい分けられました（各時代の希望中巻 143）。今日も同じ原則が適用されます。

神の印が生きた聖徒たちに押される前に分離がなくてはなりません。

「炭つばを持った御使が罪と罪人から分離するすべての人の額にしるしをつけるのである。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] I 巻 4 巻 1161）（教会への証 5 巻 505 ご参照）。

覚えましょう、神の印を受ける重要不可欠な条件として、彼らは「罪と罪人から分離」しなければならないのです。

「審判の時は最も厳粛な時であり、その時に主は毒麦の中からご自分の麦をお集めになる。同じ家族であった者たちが分けられる。印が義人に押される。」(TM234)。

「民の霊的指導者」(教会への証 5 卷 211)として立てられた者の不忠実により、主はふるいを通して忠実な残りの民を保護することを約束されました。

「神は羊飼いが真実でないところでは、神ご自身が群れを養うと約束された。神は群れが完全に人間の器だけに依存するようには決してならさなかった。しかし、教会の清められる日は急速に近づいている。神は純潔で誠実な民を持つようになる。まもなく起ころうとしている力強いふるいによって、わたしたちはよりよくイスラエルの力をはかることができるであろう。主がご自分の箕(み)を手を持って、ご自分の打ち場の麦を徹底的にふるい分ける時が近いことを、しるしが示している」(教会への証 5 卷 80)

先へ進む前に、注目すべき同じ例を考えてみることにしましょう。キリストと使徒たちの時代に、マタイ 3:12 の預言(「箕を手を持って、ご自分の打ち場の麦を徹底的にふるい分ける」お方)は、来たるべきふるいを、これは実際に三つの局面において来ましたが、次のように告知なさいました。(1) キリストと使徒たちは公に認められた宗教指導者たちから向きを変え、使徒教会を組織した時にユダヤ教会内の分離がありました(マタイ 15:14)、(2) その後、多くの自称弟子たちが主を離れてユダヤ教会に戻ることによって使徒教会の中に分離がありました(ヨハネ 6:66)。(3) そして、最後に、前の雨の降下で、多くのユダヤ人がユダヤ教会を離れて、使徒教会に加わった時、ユダヤ教会の中にもう一つの分離がありました(使徒行伝 2:41, 4:4)。これはみな、ふるいについての預言によって意味されていたことです(マタイ 3:12 参照)。歴史は繰り返します。1844 年に、初期アドベンチストの経験において類似した例を見出します。またアドベンチストの民の間で起こる預言的なふるいを研究するとき、再び類似した例を見出すのです。

預言者アモスを通して主は、「わたしは…人がふるいで物をふるうように、…イスラエルの家を…ふるう」とあらかじめ言われました(アモス 9:9)。そして、バプテスマのヨハネを通して「箕を手を持って、打ち場の麦をふるい分ける」(マタイ 3:12)と言われたふるいについての預言は、上記で言及したように、キリストと使徒時代に成就しました。ふるい落とされたユダヤ人たち(指導者たちと民)はその組織の中に残りました。「われわれはその民の歴史をくり返している」(教会への証 5 卷 160)。

て食べさせることでしょう？

いいえ、わたしたちは動物たちが生きるようには造れません。わたしたちはヒキガエルや蚊(か) でさえ、造ることができません。しかし、神さまはおできになります。そしてそうなされたのです。このお方の創造的な思いの中に、すべての動物、すべての昆虫の始まりがあり、このお方の御声がひびいたとき、それらは神様のご命令を行うために、地上から出てきたのです。

「神はまた言われた、地は生き物を種類にしたがっていだせ。家畜と、這うものと、地の獣とを種類にしたがっていだせ。そのようになった。神は地の獣を種類にしたがい、家畜を種類にしたがい、また地に這うすべての物を種類にしたがって造られた。神は見て、良しとされた」。

神さまはご自分のみわざを喜ばれました。「それは良かった」、そしてこのお方は喜ばれました。このお方に造られたものたちも喜び、平和でした。しかしなお、創造は完成していませんでした。何かが足りませんでした。すべてのものの中で最も重要なことがまだなされていませんでした。そして神さまはそれを最後までとっておかれたのです。

長芋ふわふわ焼き

■材料

長ネギ 200 g
長芋 200 g
小麦粉 50 g
醤油 小さじ1
ごま油 (炒め用) 少々

★ポン酢

しょう油 大さじ1
粗糖 小さじ1
レモン汁 大さじ1
顆粒昆布だし 小さじ1/2

■作り方

1. ポン酢の材料を良く混ぜます。
2. 長ネギを小口切りにします。
3. 長芋をすり下ろします。
4. ボールに長ネギ、長芋、小麦粉、醤油を加え大きなスプーン等で混ぜます。
5. ごま油をひいたフライパンに丸く置いて、両面を焼けたら、お皿へ。
6. ポン酢をつけていただきます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート1 第14話

動物があらわれる(II)

そこを見てごらん下さい!小さな犬が、その日からこの日まですべての犬がしてきたように、ほえたり、かけ回ったりしています。猫がゆったりとした足取りで歩いています。さるが枝から枝へぶらさがっています。シマリスがおもしろい顔をしています。ハタリスが地面にかくれるためにすばやく掘っています。カメレオンが、毎秒ごとに色を変えています。リスが大きなふさふさのしっぽをもって、埋めるための何かを探しながら走り回っています。そしてこれらはみな一日のうちに創造されたのです!あまりにもすばらしくて理解できないくらいです。考えてごらん下さい!これらの驚くべき創造されたものたちは、ただ生きているだけではなく、ちょうどみなさんやわたしのように見たり、聞いたり、かいだり、味わったり、また食べたりするために造られたのです。それ以上に、それぞれ再生する力、同じ種類の赤ちゃんを産む力が与えられていました。

みなさんは動物を絵にかくことはできます。ねん土などで動物を作ることができます。しかし、あなたの動物たちを一つとして生きようにすることはできません。それらが歩いたり、走ったり、食べたりさせることは

できないでしょう?

はい、できません。それでよかったのです。なぜなら、もしできたとしたら、お母さんは彼らの家をどうするのでしょうか?また彼女はそれほど多くのものにどうやっ



(41 ページに続く)